

年	組	名前
---	---	----

令和2年1月号



こうつうあんぜん
交通安全テスト (3・4年生用)



正しいものには○を、まちがっているものには×を記入してください。

- ① 自転車^{じてんしゃ}で歩道^{ほどう}を走^{はし}っていると、前^{まえ}に歩^{ある}いている人^{ひと}がいたので、自分^{じぶん}の存在^{そんざい}に気付^{きづ}いてもらうためにベル^なを鳴^ならした。


☐

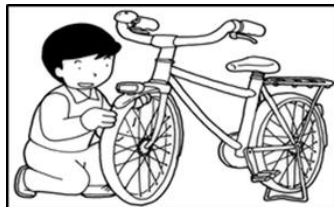
- ② 自転車^{じてんしゃ}で路側帯^{ろそくたい}（白色^{しろいろ}の線^{せん}1本^{ぽん}）を走^{はし}るときは、左右^{さゆう}どちらの路側帯^{ろそくたい}を走^{はし}ってもよい。



路側帯

☐

- ③ 自転車^{じてんしゃ}に乗^のる前^{まえ}は、ライト・ブレーキ・タイヤなどの点検^{てんけん}をする必要^{ひつよう}がある。


☐

- ④ 自転車^{じてんしゃ}は車^{くるま}の仲間^{なかま}である。


☐

- ⑤ 自転車^{じてんしゃ}で走行中^{そうこうちゆう}、歩行者用信号機^{ほこうしゃようしんごうき}に「歩行者・自転車専用^{ほこうしゃ じてんしゃせんよう}」と表示^{ひょうじ}されているときは、その信号^{しんごう}に従^{したが}って横断^{おうだん}する。


☐

解答・解説（3・4年生用）

- ① 自転車で歩道を走っていると、前に歩いている人がいたので、自分の存在に気付いてもらうためにベルを鳴らした。【×】

A：自分の存在に気付いてもらうためや、道を譲ってもらうために、ベルを鳴らしてはいけません。

● 道路交通法第54条（警音器の使用等）

第1項 車両等（自転車以外の軽車両を除く。以下この条において同じ。）の運転者は、次の各号に掲げる場合においては、警音器を鳴らさなければならない。

第1号 左右の見とおしのきかない交差点、見とおしのきかない道路のまがりかど又は見とおしのきかない上り坂の頂上で道路標識等により指定された場所を通行しようとするとき。

第2号 山地部の道路その他曲折が多い道路について道路標識等により指定された区間における左右の見とおしのきかない交差点、見とおしのきかない道路のまがりかど又は見とおしのきかない上り坂の頂上を通行しようとするとき。

第2項 車両等の運転者は、法令の規定により警音器を鳴らさなければならないこととされている場合を除き、警音器を鳴らしてはならない。ただし、危険を防止するためやむを得ないときは、この限りではない。

● 交通の方法に関する教則 第3章第2節2（走行上の注意（抜粋））

自転車に乗る場合は、危険な走り方を避けるとともに、側方や後方の車の動きにも十分注意しましょう。

(12) 警音器は、「警笛区間」の標識がある区間内の見通しのきかない交差点などを通行するときや、危険を避けるためやむを得ないときだけ使用し、歩道などでみだりに警音器を鳴らしてはいけません。

<指導のポイント>

歩道は歩行者優先です。

歩道を通行している歩行者に対し、道を譲ってもらうためにベルを鳴らしてはなりません。

- ② 自転車で路側帯（白色の線1本）を走るときは、左右どちらの路側帯を走ってもよい。【×】

A：道路の左側部分に設けられた路側帯を通行することができるが、右側部分の路側帯は通行することができません。

● 道路交通法17条第1項（通行区分（抜粋））

車両は、歩道又は路側帯と車道の区別のある道路においては、車道を通行しなければならない。

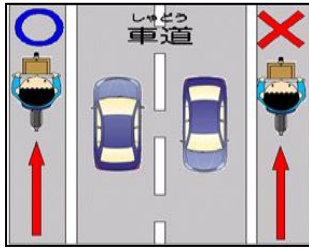
● 道路交通法第17条の2第1項（軽車両の路側帯通行）

軽車両は、前条第1項の規定にかかわらず、著しく歩行者の通行を妨げることとなる場合を除き、道路の左側部分に設けられた路側帯（軽車両の通行を禁止することを表示する道路標示によって区画されたものを除く。）を通行することができる。

※ 道路の右側部分の路側帯を自転車で通行すれば通行区分違反になります。

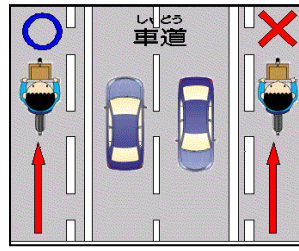
<指導のポイント>

路側帯は3種類あります。



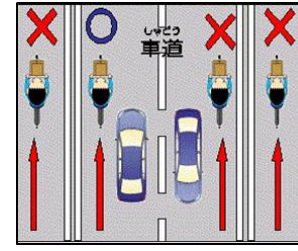
※ 路側帯
(白い1本線)

左側の路側帯は通行できる。



※ 駐停車禁止路側帯
(白い1本線と破線)

左側の路側帯は通行できる。



※ 歩行者用路側帯
(白い線が2本)

通行できない。
車道の左端を走りましょう。

③ 自転車に乗る前は、ライト・ブレーキ・タイヤなどの点検をする必要がある。【○】

A：自転車に乗る前には点検をしましょう。

● 交通の方法に関する教則 第3章第1節2（自転車の点検（抜粋））

自転車に乗る前には、次の要領で点検をし、悪い箇所があったら整備に出しましょう。

- (1) サドルは固定されているか。また、またがったとき、両足先が地面に着く程度に調節されているか。
- (2) サドルにまたがってハンドルを握ったとき、上体が少し前に傾くように調節されているか。
- (3) ハンドルは、前の車輪と直角に固定されているか。
- (4) ペダルが曲がっているなどのために、足が滑るおそれはないか。
- (5) チェーンは、緩み過ぎていないか。
- (6) ブレーキは、前・後輪ともよく効くか。
- (7) 警音器は、よく鳴るか。
- (8) 前照灯は、明るいか。
- (9) 方向指示器や変速機のある場合は、よく作動するか。
- (10) 尾灯や反射器材は付いているか。また、後方や側方からよく見えるか。
- (11) タイヤには十分空気が入っているか。また、すり減っていないか。
- (12) 自転車の各部品は、確実に取り付けられているか。

<指導のポイント>

- ① ハンドルは前輪と直角に固定されているか
- ② ライトは明るくつくか
- ③ ブレーキは、前・後輪ともよく効くか
- ④ タイヤは十分に空気が入っているか、また、すり減っていないか
- ⑤ ベル（警音器）は、よく鳴るか
- ⑥ サドルは固定されているか、また、またがったとき両足先が地面に着く程度に調節されているか

の順番で自転車の点検を行ってください。

また、ブレーキが故障している自転車に乗る事は違反となり、大変危険ですので絶対にやめましょう。

④ 自転車は車の仲間である。【○】

A：自転車は車の仲間です。

● 道路交通法第2条第1項第8号・第11号（概要）

- ・ 車両とは、自動車、原動機付自転車、軽車両及びトロリーバスをいう。
- ・ 自転車は、軽車両に分類される。

＜指導のポイント＞

自転車は運転免許証がなく誰もが運転出来る乗り物ですが、車両（軽車両）として道路交通法が適用されますので、交通ルールを守って走行しなければなりません。

⑤ 自転車で走行中、歩行者用信号機に「歩行者・自転車専用」と表示されているときは、その信号に従って横断する。【○】

A：歩行者用信号機に「歩行者・自転車専用」と表示されているときは歩行者用信号機に従わなければなりません。

- 道路交通法第7条（信号機の信号等に従う義務（抜粋））
道路を通行する歩行者又は車両等は、信号機の表示する信号又は警察官等の手信号等に従わなければならない。
- 道路交通法施行令第2条第4項
公安委員会が、人の形の記号を有する青色の灯火、人の形の記号を有する青色の灯火の点滅又は人の形の記号を有する赤色の灯火の信号を表示する信号機について、当該信号機の信号が歩行者及び自転車に対して意味を表示するものである旨を内閣府令（道路交通法施行規則第3条の2（信号の表示））で定めるところにより表示した場合における当該信号の意味は、次の表の上欄に掲げる信号の種類に応じ、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。

人の形の記号を有する赤色の灯火	人の形の記号を有する青色の灯火の点滅	人の形の記号を有する青色の灯火
1 省略 2 自転車は、道路の横断を始め、又は停止位置を越えて進行してはならないこと。 3 省略 4 省略	1 省略 2 自転車は、道路の横断を始めてはならず、また、当該信号が表示された時において停止位置に近接しているため安全に停止することができない場合を除き、停止位置を越えて進行してはならないこと。	1 省略 2 自転車は、直進をし、又は左折することができること。

- 交通の方法に関する教則 第1章第2節1（信号の意味（抜粋））
(3) 人の形の記号のある信号は、歩行者と横断歩道を進行する普通自転車に対するものですが、その他の自転車もその信号機に「歩行者・自転車専用」と表示されている場合は、その信号機の信号に従わなければなりません。
- 交通の方法に関する教則 第3章第2節3（交差点の通り方（抜粋））
(1) 信号が青になってから横断しましょう。
なお、「歩行者・自転車専用」と表示されている歩行者用信号機がある場合や横断歩道を進行する場合は、歩行者用信号機の信号に従わなければなりません。

＜指導のポイント＞

自転車は、歩行者用信号機に「歩行者・自転車専用」と書かれた表示板が設置されている所では、自転車は当該歩行者用信号に従わなければなりません。